

―防災―最終レポート

まず、小の口公園で防災関連のインフラ状況を確認した。公園内で最初に目にしたのは、Free WiFi であり、その通信速度の速さに驚いた。これは災害時における情報伝達手段として非常に重要であり、緊急時にも活用できる可能性があると感じた。しかし、場所によっては圏外になったりとまだ改善すべきところもあるだろう。公園内の防災設備に目を向けると、防火水槽の標識が設置されていた。しかし、「防火水槽」と表示されるべきところが旧式だったためか「防火木槽」と見えてしまい、緊急時に誤解を招く可能性がある。このような標識の不備は、特に災害発生時に混乱を招く可能性が高いため、早急な対応が求められると感じた。

次に、台風による被害を確認するために東要寺を訪れた。ここでは、台風の影響で被害を受けた大木が見られた。東要寺は標高が比較的高い位置にあるにもかかわらず、大木が大きな損害を受けており、台風の威力を改めて実感させられた。特に、標高のある場所であっても風害が避けられないことから、台風対策としての防風林の整備や建物の補強など、標高だけに頼らない防災対策が求められる。ただ、防風林については植生も関係してくると思われるので、今後はそこについても探求していきたい。

小学校を訪れ、その避難所としての機能を検討した。訪問した小学校は生徒数に対して校舎が非常に広く、避難所としての収容能力は十分であると感じた。しかし、標識の数は”初めての人の人にとっては”少なく感じ、特に島外から来た人々や新しく島に移り住んだ人々にとっては、避難経路が分かりにくく、緊急時に小学校までの道で迷ってしまう可能性が高いと考えられた。この点については、避難所までの道筋をより明確に示す標識の追加が必要であると感じた。避難場所が特定されていても、その場所に迅速に到達できなければ避難計画は有効に機能しないため、道案内の改善が不可欠だと考える。

与謝野晶子記念碑の近くには津波避難経路が表示されていたが、その整備状況には大きな問題が見られた。まず、避難経路を示す矢印の向きが温泉の方を指しているように見え、実際の避難時には混乱を招く可能性がある。また、避難経路そのものが整備されておらず、草が生い茂り、蜘蛛の巣が張っている状況だった。このような状況では、緊急時に迅速な避難が難しくなることが懸念される。さらに、この避難経路は松が下雅湯の利用者が使用することも想定されるが、温泉を利用した後の人々が急いで避難する際には、裸足で避難する可能性が高い。そのため、道路の整備が不十分であると怪我をするリスクが高まるだけでなく、避難の遅れを招く要因となりうる。加えて、道が非常に狭く、もし誰かが転倒した場合、避難が一時的に停止してしまう恐れがあるため、避難経路の道幅についても改善が求められると感じた。夜間においては、避難経路を照らす照明がなく、暗闇での避難が難しい点も確認された。津波や台風といった災害はいつ発生するか予測が困難であるため、昼夜問わず安全な避難が可能となるよう、照明設備の整備が必要であると考えられる。